

科 目 名		学年	
応用数学II : Applied Mathematics II		4C	
教 員 名 菊政 勲 : KIKUMASA Isao			
単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	
1	100分×15回	必修	
授 業 概 要		授 業 形 態	
本講義では解析IIIに引き続き、応用上重要な2変数関数の積分法について学ぶ。 数学の応用を考える時、変数が2つ以上ある状況は極めて多い。2変数関数の扱いは、基本的に1変数と同様であり、1変数の積分を2回行う「累次積分」等がそれである。しかしながら、2変数特有の注意すべき点も多くあり、新しい現象をしっかりと学んで欲しい。		講義・後期	
学 修 単 位		○	
到 達 目 標		評 価 方 法	
(1) 累次積分の意味が理解でき、2重積分の計算ができる。 (2) 極座標など変数変換を用いて2重積分の計算ができる。 (3) 2重積分を用いて、立体の体積、曲面の表面積を求めることができる。		評価方法は、 ①定期試験 ②自学自習のレポート で評価する。 評価配分は、 ① 80% ② 20%とする。	
学 習 ・ 教 育 目 標		(E) ① JABEE基準1(1) (C)	
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	2重積分の定義と性質	2重積分の定義と性質について説明する。
	第2	2重積分の計算(1)	2重積分の計算方法について説明する。
	第3	2重積分の計算(2)	2重積分の積分の順序を入れ替える方法について説明する。
	第4	立体の体積	2重積分を用いて立体の体積を計算する方法について説明する。
	第5	演習	2重積分の計算のまとめ、問題演習を行う。
	第6	座標軸の回転	座標軸の回転について説明する。
	第7	座標軸の回転と2重積分	座標軸の回転による2重積分の計算について説明する。
	第8	極座標表示による2重積分	極座標による2重積分の計算について説明する。
	第9	中間まとめ	中間まとめとして、試験を実施する。
	第10	座標変数の変換	一般の変数変換について説明する。
	第11	座標変数の変換と2重積分	一般の変数変換による2重積分の計算について説明する。
	第12	広義積分	広義積分について説明する。
	第13	2重積分の応用(1)	2重積分を用いて曲面の面積を計算する方法について説明する。
	第14	2重積分の応用(2)	2重積分を用いて重心を計算する方法について説明する。
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。また、授業評価アンケートを実施する。	
自 学 自 習 の 内 容		授業時にレポートを課す。	
関 連 科 目		代数、解析 I A、解析 I B、解析 II A、解析 II B	
教 科 書		微分・積分 II (大日本図書)	
参 考 書		多変数関数の微積分とベクトル解析 加藤祐輔 著(講談社)	
授 業 評 価 ・ 理 解 度		最終回に授業評価アンケートを行う。	
副 担 当 教 員		服部 勝己 : HATTORI Katsumi	
備 考			